

高校生向けワークショップ 「いっしょに考えるヤングケアラー」実施報告書

1 目的

令和5年度に施行されたことも基本法や昨年末に国から示されたことも大綱において、あらゆる子ども施策の策定について、子どもや若者の視点を尊重し、その意見を聞き、対話しながらともに進めていくことが国や地方自治体に必要とされている。そのため、目黒区の子ども施策の策定において、幅広く子どもの意見を聞いていく必要がある。

そうした背景の中、「ヤングケアラー」というテーマを取り上げ、目黒区内で学ぶ高校生を対象にワークショップを開催し、「ヤングケアラー」について理解を深めると同時に地域や行政のサポートの在り方についてともに考えていく。

2 実施概要

日 時：令和6年6月26日(水) 15:45～17:45

開催場所：トキワ松学園高等学校

参 加 者：19名(高校2～3年生)

ファシリテーター：ヤングケアラー協会より2名

事務局：子育て支援課子育て支援推進係 与那覇・佐藤

子ども家庭支援センター事業係 宮川係長、本間主事

子ども家庭支援センター所長、福祉総合課長

3 タイムテーブル

時刻	内容
15:45～15:50	【事務局】 開会、事務局あいさつ、区側出席者紹介
15:50～16:20	【ファシリテーター：講義形式】 自己紹介、ヤングケアラーの概要、社会的背景、事例紹介
16:20～16:30	*休憩*
16:30～17:40	【ファシリテーター：ワークショップ形式】 アイスブレイク、ディスカッション、ワークショップ、まとめと発表
17:40～17:45	閉会、アンケート依頼

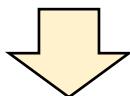
4. ワークショップ概要

ワークショップの実施方法

- ・4名×4グループ、3名1グループの計5グループに分かれて実施
- ・検討事例をもとに、4つのテーマ(投げかけ)について、それぞれのグループで意見を出し合う
- ・出し合った意見を整理して、参加者の前で発表する

●検討事例●

- ・当事者:都立高に通う 男子
- ・同居家族:祖母(アルツハイマー型認知症)、父(単身赴任 月1回帰省)、兄(大学生)
- ・幼少期に父母が離婚し父方に引き取られ育てられる
- ・祖母の介護をしなければならずきちんと学校へ通えていないため、学校からさぼっていると良く思われていない
- ・兄は協力的ではない
- ・大学進学を迷っている



○検討テーマ○

- ①もしAさんがクラスにいたら私たちはAさんのために何ができると思う？
- ②もしクラスメートにAさんがいたら、クラスメートは大人に何をしてほしいか？
- ③Aさんは何があれば周りに相談しやすいと思う？
- ④もし、自分がAさんだったら、Aさんの周り(同級生、大人)に何をしてほしいかな？

—主な意見—

① もしAさんがクラスにいたら私たちはAさんのために何ができると思う？

本人へアプローチ

- ・声をかける
⇒何か助けられることはない、最近どう？、助けたいこと、心配していること、先生に伝えてみたらと提案する、
- ・勉強を教えてあげる
- ・見守る、そっとしておいてあげる
- ・学校での負担をへらしてあげる
⇒遅刻していたらノートみせる、授業で分からぬ所があれば教える、欠席や遅刻分のノートプリントを積極的に見せてあげる、お弁当作ってくる
- ・話を聞く、少しずつ仲良くなる
- ・Aさんの壁打ちの相手になる
- ・一緒に家に行ってケアする
- ・カウンセリングをすすめる
- ・気軽に連絡をとれるSNSを使用して友人に相談しやすい雰囲気づくり

大人へアプローチ

- ・周りの大人に相談する、本人は不真面目じゃないことを先生に伝える。
- ・先生と自分の会話にAさんも入れる

自分自身が動く

- ・共感してあげるためにヤングケアラーについて勉強する
- ・アルツハイマーについてもっと調べる
- ・ボランティアをする
- ・本人と話すきっかけを作るために趣味を知る
- ・状況を理解してくれて気を許せる友人になる
- ・解除や父親の単身赴任への偏見を自分自身が持たない

② もしクラスメートにAさんがいたら、クラスメートは大人に何をしてほしいか？

話を聞いてほしい

- ・声をかけてほしい

理解してほしい

- ・遅刻などについて理解してあげてほしい
- ・壁打ちの相手がほしい
- ・周りの人は自分の力を過信しないでほしい
- ・一緒に遊んであげる
- ・大人が客観的に見られていない
- ・手伝ってもらいたい
- ・偏見を持たないでほしい

家族への対策してほしい

- ・兄と自分で世話をする日を考える
- ・父親が月に1回しか帰ってこないのをどうにかしてほしい
- ・祖母を入院させる
- ・お父さんを再婚させる
- ・兄バイトさせる

まわりの大人への対策

- ・近所の人に買い物に行ってもらう
- ・色々な大人にAさんの状況を知ってもらう
- ・同じ悩みを抱える人たちを集めて交流会を開く

環境への配慮

- ・ひとりで落ち着ける場所、勉強できる環境を整えてほしい
- ・協力してほしいことがあつたらクラス内に共有してほしい
- ・波風をたてないで解決案だけを大人が欲しい
- ・ヤングケアラーの授業をしてもらったりオンライン授業を受けられるようにする
- ・ヤングケアラーの援助になるようなサービスを広める
- ・老人ホームなどの福祉施設の存在を教える

制度の紹介や対応

- ・こういった家庭は少なくないので国にもヘルパーの賃金を上げるなど
- ・ヘルパーさんをやとう
- ・奨学金制度などを教えてほしい
- ・ボランティアを設立
- ・ヤングケアラーに配慮した大学
- ・施設を増やす
- ・相談窓口の紹介

③ Aさんは何があれば周りに相談しやすいと思う？

共感してくれる人

- ・同じ境遇の人からのアドバイス
- ・知識がある先生、寄り添ってくれる先生、スクールカウンセラー
- ・友達
- ・周りが積極的にAさんの状況を先生に伝える

環境

- ・相談窓口（メール、DM、SNS）
- ・言い出すきっかけ、気軽に話せる機会
- ・家事代行屋
- ・奨学金など少しでも大学のことをサポートできる環境

周知

- ・町内、駅のトイレなどの目につくところに相談先の書かれたチラシを配る
- ・交通機関でアナウンス
- ・県や区がヤングケアラーについて広める

場所

- ・一人の部屋と一人の時間
- ・チェーン店とかで話せる環境を作る
- ・定期的なzoomの相談会

その他

- ・1回倒れる
- ・三者面談

④ もし、自分がAさんだったら、Aさんの周り(同級生、大人)に何をしてほしいかな？

見守ってほしい、理解してほしい

- ・声をかけるまでほっといてほしい、変な差別しないで普通に接してほしい
- ・周りの人は自分の力を過信しないでほしい
- ・大人が状況を客観的に見れるようにする
- ・ヤングケアラーについて回りが理解して大変さを知ってほしい
- ・信頼できる先生が欲しい

大人に教えてほしい

- ・こういう境遇の人が自分だけじゃないということを教えてほしい
- ・授業で分からぬ所があれば教えてほしい
- ・区からのお金支給
- ・補助金やケアの内容

大人に相談にのってほしい

- ・大学進学について
- ・相談したらだまつてきいててほしい
- ・親と話し合ってもらってほしい

家族への対応をしてほしい

- ・(祖母)老人ホームへ連れていく
- ・父と兄の性格改変
- ・ヘルパー週七
- ・兄に月1で良いから協力依頼、力仕事や就労を依頼
- ・祖母を老人ホームに送る等の対応

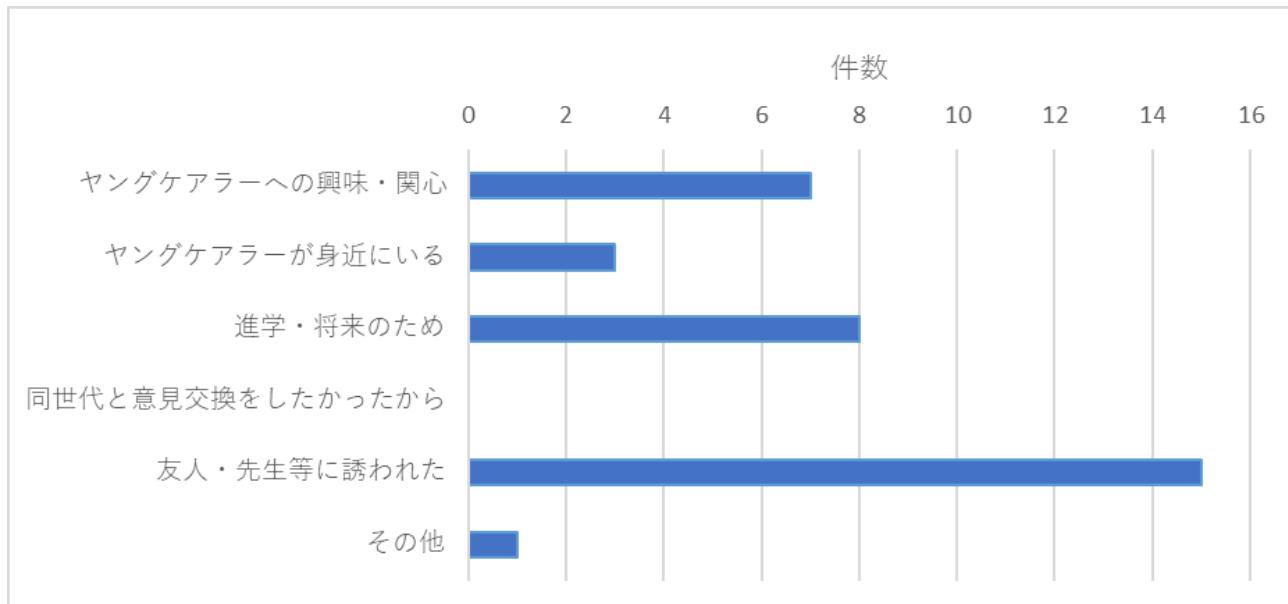
その他

- ・手伝ってほしい、その人の負担にならない程度に手伝う＝距離感が大事
- ・悩みを分かち合えるパートナーがほしい
- ・授業zoom参加できるようにしてほしい

5 実施後アンケート結果

【ワークショップへの参加動機】

問1. 今回のワークショップに参加してみようとおもったのはなぜですか？（複数回答可）



選択肢		割合
ア	扱うテーマ（ヤングケアラー）について興味があったから	21%
イ	身近にヤングケアラーの存在がいるから	9%
ウ	進学や将来の夢をかなえるために必要な知識であると思ったから	24%
エ	同世代の友人たちと話し合ったり意見交換をしたかったから	0%
オ	友人・先生等に誘われたから	44%
カ	その他	3%

【ワークショップの内容について】

問2. ワークショップの全体的な流れはいかがでしたか（○は1つ）

■内容について	
・とても理解できた	16件
・だいたい理解できた	1件
・理解できなかった	0件

■所要時間について	
・長すぎる	0件
・ちょうどいい	17件
・短すぎる	0件

【自由意見】

問3. 実際に参加してみて気づいたこと、わかったこと、さらにしりたいことなど思ったことを教えてください（自由記述）

- ・そもそもヤングケアラーの協会が存在すること自体しらなかったので、とても興味がわいたし、私達自身がヤングケアラーについて考えることは少なかったためいい機会になりました
- ・お金のありなしも関係なくヤングケアラーが存在すること
- ・高校生の同じ年代のヤングケアラーと実際にあって話ををしてみたいと思いました
- ・ヤングケアラーの人数が思ったよりも多かったので、今すぐにも対応するべき問題なのだとあらためて感じました。
- ・あまり無理に聞き出すことはせずに、ヤングケアラーであるその子が話してみよう！と思う環境をつくことが大切だと思いました
- ・大人の方が力になってくれるだけでも十分支えになると思うので大人の方々にヤングケアラーについて理解していくことが必要なのだと思いました。
- ・中学時代の友人が障害のある妹のお世話をしながら学校にかよって学業もきちんとしていたので、こんなに大変な状況だや思っていなかった
- ・他にどんなヤングケアラーについて知りたいと思った。それに伴い解決策も考えてみたいと思った。
- ・自分もヤングケアラーに分類されるのかなと思った
- ・ヤングケアラーについて私はあまり知識がなく同年代の人らが家庭で困っているという情報しからず、解決法など考えた事がなかったので良い機会だった。また、問題を抱えている本人にとってはとてもナイーブな内容なので何よりも動くことの出来る私達が理解し、事を少しずつ進めるのが良いと思った。
- ・グループごとでそれぞれ色々な意見があり、とても興味深かった
- ・皆さんもっとヤングケアラーの現状やヤングケアラーはどういうものかを知った方がよいと思いました
- ・9歳からヤングケアラーをしているなど当時の自分では絶対に出来ないので凄いなと思った
- ・初めてヤングケアラーのことについてくわしく知ったけれど私たちにできることも多くあることに気づけて良かったです
- ・ヤングケアラーについて、知識を深めたり、実際に考える場がなかったので詳しく知れたり考えることができ良かったです
- ・自ら友達について気付いてあげられるような人になりたいと思いました
- ・ヤングケアラーについての知識が浅かったので今回のワークショップを通して詳しくしました
- ・みんなと意見を交換したことによって自分では気付けない視点に気付けました
- ・家庭の孤立化ってヤングケアラーだけでなく、DVとかもなのでは？と思った

6 今後の施策への反映等

○ ヤングケアラー認知度

ヤングケアラーについて聞いたことがあるという人が増えていても、そのことについて考えたことがある人はまだまだ少なかった。今回のワークショップに参加した生徒からも、ワークショップに参加したことで詳しく知ることができたこと、「自分もヤングケアラーに分類されるのかなと思った」など、自分に引き寄せて考えるきっかけとなった様子がうかがえる。今回のような参加型で開催を実施する重要性を改めて認識することができた。詳しく知り、考えるところまで含めての認知度向上のため、効果的な施策について、専門的知見を取り入れながら考えていきたい。

○ 子どもにとってわかりやすい周知の重要性

行政が考える周知方法として、学校を通しての啓発リーフレットの配布や区民向け講演会の実施を行ってきたが、今回、ワークショップの中で学生や元ヤングケアラーの講師からの意見を聞くことで、視野を広げて対応していく必要があると認識した。今回出た当事者と同世代の子どもの意見をヤングケアラー支援事業委託の際に反映させていきたい。例えば、駅のトイレ、カフェなどの商業施設の目につくところに相談先の書かれたチラシを配ることやデザインも当事者世代の意見を取り入れるなど工夫できるヒントを多く得たので、取り入れていきたい。

○ ヤングケアラーに関する理解・認知度をあげるための取組の重要性

ワークショップの実施により、関係機関職員、教育委員会、当事者世代にヤングケアラーについて意識を持つ人が増えるような取組が重要である。

ワークショップでの生徒のやりとりや発表内容から、自ら考え、それぞれの考えを聞くことで多様な視点を持つことができ、それが記憶に定着していく。インプットアウトプットを繰り返すような研修やワークショップを今後も実施していくことを検討する。

7 意見聴取事業としての今後の課題

○ 各学校との共同

今回意見聴取事業として、子ども施策推進会議委員であるトキワ松学園高校の田村校長のご協力があり、実施することができた。生徒たちは、普段使用している教室で実施することにより、終始和やかでリラックスした雰囲気で臨むことができたため、より活発な意見交換ができていた。

今後、区内の複数の高校・大学と協力し、実施することができたら、より様々な視点から意見を収集することが可能になる。

○ 社会問題や行政課題を共に考える取組

社会問題や行政課題に対する行政の取組を「啓発」という形で知ってもらうだけでなく、地域社会の問題としてどうえ、それぞれ(当事者、地域、行政等)の役割を考えるという今回のワークショップは、子どもの意見表明権を確保する点で、またその先の施策に反映していくという点で新しい取組であった。今回はヤングケアラーという題材を扱ったが、今後も題材を変えて実施することを検討していくことが必要である。

高校生向けワークショップ
「いっしょに考えるヤングケアラー」
実施報告書

令和6年7月
目黒区 子育て支援部子育て支援課